

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Sungaikolok School



三次市立君田中学校

交流の概要

学年：第2学年

単元名：Unit 3 Plans for the Summer

ねらい 学校行事についてタイの生徒に紹介することができる。

Unit 4 Tour in Singapore

タイの生徒が日本に興味を持ってもらえるように、日本について紹介することができる。

(Here We Go! ENGLISH COURSE 2)

フリートークの様子



日本の紹介をしている様子



活動内容：

①学校行事の紹介

学校行事についてロイロノートを使って発表を行った。生徒は、最初は緊張してリアクションを取ることができていない様子も見られたが、相手が質問してくれることに対して一生懸命応えようとしていた。

○準備時間：3時間 ○グループ数：2つ

○交流内容：学校行事

②日本の紹介（グループ）

互いの国（文化、食べ物、場所など）について紹介した。生徒はCanvaで作成したスライドを見せながら発表を行った。その際、タイの生徒が見せた菓子に興味を持ち、菓子について質問する様子が見られた。また、タイ語での「ありがとう」の言い方や作法を聞き、全員が真似をしたり、日本語での「ありがとう」の言い方を教えたりして会話を楽しんだ。紹介の後には、互いの国について気になることを質問し合った。その後、フリートークの時間を設け、互いの好きな食べ物やスポーツ、色などについて交流した。

○準備時間：4時間 ○グループ数：2つ

○交流内容：日本の食べ物、有名な場所、文化、四季について など

生徒は、最初は緊張している様子も見られたが、「なんとか自分の言葉で伝えてみよう」「挑戦してみよう」という姿が見られた。また、学習してきた英語を使ってコミュニケーションをすることができ、達成感を味わうとともに自信にもつながっていた。交流授業後は、「外国人と積極的にコミュニケーションを図りたい」という生徒が増え、積極的に英語を使うとする姿が見られた。

«接続方法：Zoom»

大切にしたこと

- ・授業の中で、誰のため、何のために紹介するのかを繰り返し伝え、相手意識や目的意識を持たせたこと：ただ紹介するのではなく、どのように表現すれば日本にあるものを詳しく伝えることができるのかを考えながら、発表を工夫することができた。例：「納豆だけでは伝わらないから、ネバネバしている食べ物であることを付け加えよう！」
- ・授業のSmall Talkで質問やリアクションの練習を繰り返し行ったこと：どのような質問をすればコミュニケーションを続けられるのかを考えることができた。
- ・交流の時間をたくさん取り、失敗を恐れず自分の言葉で伝えるように促したこと：相手に通じた時の喜びが大きく、「もっと伝えてみよう」という気持ちを高めることができた。

交流を終えて

生徒の声

- ・もっと相手に質問したり、答えたりできるようにしたい。リアクションを取れるようにもっと英語の学習を頑張りたい。
- ・交流できて楽しかったから、今度は日本のことをもっと教えてあげたい。
- ・自分の英語が伝わって嬉しかった。

先生の声

- ・交流に向けて、生徒がタイの生徒に伝えるという目的意識を持って言語活動に取り組むことができた。
- ・交流後は、「もっと英語で質問できたらよかった」などの声を聞くことができ、英語学習の意欲向上につながったのではないかなと思う。
- ・教員も英語で話す機会ができて、自分自身の英語力向上にもつながったと感じた。
- ・普段の授業では学ぶことができないことを教えてもらえる価値のある経験になった。